

だから職員が辞めていく ダメな施設を選ばないために 18

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-09-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡田, 耕一郎, 岡田, 浩子 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/230

だから職員が辞めていく



18

ダメな施設を選ばないために

猫の目行政という言葉がある。これは、猫のひとつが周りの明るさによって形が変わることから、行政の打ち出す制度が頻繁に変化するのを皮肉った言葉である。厚生労働省（厚生省）も役所なので、伝統的に猫の目行政を実践してきた。

「趣味の介護を個人の立場で提供する」という奇妙な理屈がまかり通っているのである。さて、このような奇妙な世界は「養の河原」を思い起させる。親に先立って死んだ子どもが「一つ積んでは父のため、一つ積んでは母のため」と言いながら、親の供養のために石を積んで塔を作ると、どこからか鬼がやってきて、その塔を壊し、子どもが塔を作るたびに鬼が壊すという繰り返し。子どもたちの努力は報われることはないが、最終的に地藏菩薩によって救われるという話だ。

「鬼」とは「管理職」であり、石を積んでいく「子ども」とは現場の「介護職員」である。石を積むとは、その施設の介護のノウハウを蓄積することであり、石を崩すとは、せっかく積み上げたノウハウなどを捨て去ることである。

現場の職員に身近なところでは、天井走行式リフトであり、回廊式廊下であり、現在のユニットケアもその有力な候補である。これらの斬新すぎる試みは、一部の有識者や役人などの思い付きで始められ、現場の職員に反対されて方向転換されたものである。ところが、介護現場の関係者は、このような行政の猫の目ぶりを批判するもの、実は自分たちも同じようなこと（猫の目介護）をやっていることに気づいていない。今回は、この「猫の目介護」の問題を取り上げることにしよう。

「〇〇のリーダー論」に惑わされるな

「〇〇のリーダー論」に惑わされるな

「〇〇のリーダー論」に惑わされるな

「理想の介護」の罪深き実態

新米管理職は、『〇〇のリーダー論』を読んで介護現場を賽の河原にするの

介護現場は、実は日本中の老人ホームがそうなのかもしれないが、仮免練習中のような管理職であふれている。それまでヒラの介護職員であったのが、ある日突然、上の人と呼ばれて、管理職（介護主任、介護チ

「猫の目介護」

「猫の目介護」

岡田耕一郎（おかだ こういちろう）
経営学博士、経済学教授、東北大学大学院社会学部教授、日本経済評論会理事、日本介護学会理事、日本介護学会研究員

岡田浩子（おかだ ひろこ）
福祉士、著書『老と死の儀式』を出版

「ケアマネジャー」の資格を研究

「猫の目介護」